日文教育資料［中学校社会］

社会科 NAVI+ ナビプラス

中学社会

1人1台端末を使った授業実践

社会科における主体的・対話的で深い学びの授業づくりとICTを活用した学習活動の工夫

宮崎県西都市立三納中学校 福嶋 章

社会科におけるICT機器の効果的な活用を模索してみた！

宮崎県日南市立東郷中学校 春田 一樹

1人1台端末を活用して協働的な学び・個別最適な学びを実現

宮崎県小林市立西小林中学校 早田 泰大

日文の Webサイト

日文

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

心が動く、その先へ。
日本文教出版

社会科における主体的・対話的で深い学びの授業づくりとICTを活用した学習活動の工夫

宮崎県西都市立三納中学校 福嶋　章

01 社会の授業における生徒用タブレットの活用

授業での活用としては、家庭学習や授業の初めに基礎的・基本的な知識を獲得するためのドリル学習ツールとしての使用と、授業場面における学習補助ツールの２パターンである。授業場面においては、基本的に資料配付と意見交換のために使用している。探究活動の際は情報を調べるツールとして活用しているが、特別な使用ではなく、タブレット＝学習用具（ツール）という意識である。

生徒用タブレットを効果的に授業場面で活用することで**「主体的・対話的で深い学び」の実現**につながると考える。以下、自身の授業実践について紹介していく。

02 中学校２年生（地理的分野）「九州地方」

自然環境を中核に九州地方の単元を学習した。この単元の中で、沖縄県の地域的特色について資料をもとに考察した実践を紹介する。学習の工夫としては、導入段階で生徒たちの沖縄に関する知識との対比から、「雨の多いはずの沖縄県でなぜ水不足が起こるのだろう」と課題解決学習がスタートする。

指導案

1：単元名　九州地方～沖縄県の水不足の謎に迫る～

2：本時の目標　南西諸島の気候と沖縄県の地域的特色について資料をもとに考察することができる。（思考力、判断力、表現力等）

3：本時の展開

	学習活動および学習内容	学習形態	指導上の留意点	評価	資料・準備
導入	◎前時までの復習をする。 ・１問１答クイズ形式 ◎本時の学習課題に迫る。 ・沖縄の気候について ・沖縄の家について	一斉	◎苦手な生徒も答えやすい問いにする。 ★生徒用タブレットに資料を送信し、子どもたちが疑問をもつよう工夫する。	◎一人一人が参加することができる。	◎タブレット端末 **資料１** 雨温図 **資料２** 台風の通過（図） **資料３** 沖縄の家（写真）
	学習課題 なぜ沖縄県は雨が多いのに水不足になるのか。				
展開	◎学習課題の予想をする。 ・一定の時期しか降らない ・蒸発する ・降った雨が海に流れ出る ◎資料をもとに検証する。 【個人】→【ペア】 ※資料は異なるものを用意し、２人の情報を関連付けて学習課題の答えを導く。	一斉 個人 ↓ グループ	◎予想なので多くの意見を出させる。 ◎個人で資料読み取りを行い、ペアで情報交換を行う。２人の情報を関連させ、学習課題の答えを考察させる。 ◎グループで意見を出し合い、ホワイトボードに意見をまとめさせる。	◎学習課題に対する自分の考えを表現できる。（ノート・観察） ◎南西諸島の気候と沖縄県の地域的特色について資料をもとに考察することができる。（ノート・机間指導）	◎タブレット端末 **資料４** 沖縄の地層（図） **資料５** 沖縄の標高（地形図） **資料６** 沖縄の川と宮崎の川（図）
まとめ	◎グループの意見を紹介する。 ◎本時のまとめをする。 ◎ふり返りを行う。	一斉 個人 グループ	◎発表側は大きな声で分かりやすく、聞く側は相手に体を向け発表を聞かせる。 ◎自分の言葉で表現させる。 ◎本時のふり返りをペアで行う。		

03 中学校２年生（歴史的分野）「産業革命と資本主義」

イギリスの産業革命における資本主義の発達について、資料をもとに資本主義の光と影を考察する。生徒たちは平均寿命が短かった事実を知り、「なぜイギリスの平均寿命は短いのだろうか」という課題を解決していく。

図１　資料の配布と読み取り

❶主体的な学習の工夫

どの単元においてもペア学習を採用している。資料についてはそれぞれ異なるものを配付し、自分の担当の資料の読み取りができないと、学習課題の答えが導き出せない。それぞれの資料を読み取ることに責任をもたせることで主体的な学習を促すことにつながる。

❷対話的な学習の工夫

異なる資料の読み取りを行ったあとに情報を伝達する時間を設定している。その際、タブレットに書き込みながら相手にわかりやすく伝えることが求められる。資料の説明をお互いに行った後、学習課題に対する答えを２人で議論し、記述する。

指導案

１：単元名　欧米における近代化の進展～産業革命の影響とは～

２：本時の目標　産業革命の影響について、資料をもとに考察することができる。（思考力、判断力、表現力等）

３：本時の展開

	学習活動および学習内容	学習形態	指導上の留意点	評価	資料・準備
導入	◎前時までの復習をする。 ◎当時のイギリスの写真や資料から学習課題を設定する。	一斉	◎苦手な生徒も答えやすい問いにする。 ◎当時のイギリスと現代社会を対比できるように資料を提示する。 ◎資料から得た気づきを生かして学習課題を設定する。		◎タブレット端末 資料１　鉄道の開通（写真） 資料２　イギリスの平均寿命（グラフ）
	学習課題　なぜイギリスの平均寿命は短いのだろうか。				
展開	◎学習課題について予想する。 ◎資料をもとに検証する。 【個人読み取り→情報の共有】 ◎グループごとに学習課題に対する答えを紹介する。	個人 グループ	◎必ず一つ以上の考えをワークシートに記述するよう説明する。 ◎まず個人で資料を読み取らせ、その後情報を交換する場を設定する。 ◎悩んでいる生徒には読み取りの視点を与え、自分で読み取ることができるよう支援する。 ◎ジグソー法を用い、自分の力で読み取りをさせる。	◎産業革命の影響について資料をもとに考察することができる。（机間指導・観察・ワークシート）	◎タブレット端末 ◎ワークシート 資料３　人口の増加（グラフ）、交通網の発達（写真） 資料４「生活環境と伝染病」 資料５「児童労働と労働条件」 資料６「イギリスの工業の発達と貿易」 ◎マーカー ◎ホワイトボード
まとめ	◎本時のまとめをする。 ◎ふり返りを行う。	個人	◎書く力を付けるために、まとめの時間を十分にとる。		

04 中学校３年生（公民的分野）「効率と公正」

対立の起きた状況で、より良い解決法について考え、「みんなが納得のいく解決策を考える時に必要な視点」について自分なりの考えを見出す。

●自身の考えを表現する

これらの活動を通して生徒たちは自分の言葉で根拠をもとに意見を述べることができるようになる。特にICT機器でのプレゼンテーションは表現力の向上につながり、**「深い学び」の実現に大きく結びつく**と考える。

指導案

1：単元名　より良い解決法は何？ ～現代社会の見方や考え方～

2：本時の目標　コンビニやテーマパークの並び方のイラストをもとに、みんなが納得できる解決策について、効率と公正の視点をもとに考察できる。(思考力、判断力、表現力等)

3：本時の展開

	学習活動および学習内容	学習形態	指導上の留意点	評価	資料・準備
導入	◎前時までの復習をする。 ◎コンビニのレジの並び方のイラストから気づいたことを発表する。 ・並んだ順に空いたレジに入れる。 ・レジごとに並ぶ。 ◎テーマパークの並び方のイラストをもとに学習課題を設定する。	一斉	◎「対立」と「合意」に関する問いにする。 ◎１列に並んで空いたレジに入ることが「効率」と「公正」であることに気づかせる。 ★イラストを生徒一人一人のタブレット端末に送信し、拡大させることで細部の情報に気付かせる。 ◎「効率」と「公正」が合意をもたらす視点であることを説明する。 ◎コンビニのレジの並び方との違いに注目させ、座席に空席があることに気付かせる。		◎モニター ◎パソコン ◎タブレット端末 **資料１** コンビニのイラスト ◎ワークシート ◎掲示物用カード 「対立」「合意」 「効率」「公正」 **資料２** テーマパークのイラスト
	学習課題 みんなが納得のいく解決策を考える時に必要なことは何だろう。				
展開	◎テーマパークの並び方についてみんなが納得のいく解決策を考える。 【個人思考】 ◎グループで１つにまとめる。 【集団思考】 ◎解決策を発表する。 ◎１人乗り専用入り口のイラストを見て、気付いたことを発表する。	個人 ↓ グループ	◎解決策を考える際に、「効率」と「公正」の視点から考察するように助言する。 ★個人のタブレットにテーマパークの写真を送信し、書き込みながら考察させる。 ★個人思考の後にグループで協議させる。ホワイトボード役、タブレット役、発表役を決めておく。 ★発表の際は事前にタブレットに書き込んでおく。 ◎各班の発表内容を「効率」と「公正」の視点から評価させる。 ◎評価の結果と理由を紹介させ、最も評価の高かった班の意見を「効率」と「公正」の視点から確認する。	◎みんなが納得できる解決策について、効率と公正の視点をもとに考察できる。(観察・WS)	◎タブレット端末 ◎ワークシート ◎マーカー ◎ホワイトボード
まとめ	◎本時のまとめをする。 ◎ふり返りを行う。	個人	◎書く力を付けるために、まとめの時間を十分にとる。 ★まとめを教師に送信し発表させる。		◎ワークシート ◎タブレット端末

図２　自分の意見をプレゼンする

05 おわりに

社会科の会や研修会において、タブレット端末の活用について、議論することが多くある。どのように活用するべきなのか社会科の先生方と今後も意見交流を深めたいところである。

社会科におけるICT機器の効果的な活用を模索してみた！

宮崎県日南市立東郷中学校 春田　一樹

01 はじめに

新型コロナウイルス感染症に関する全国一斉休校から、だいぶ時間が経ち、ICTの活用に関して教師も生徒も随分慣れてきたように思える。GIGAスクール構想のスタート当初、当時勤務していた学校では、積極的に利活用してみようと興味・意欲が高い教員と、使用に関する不安から利活用に後ろ向きな教員と大きく２つに分かれた。これは全国的にも同じ現象が起きたのではないか。

現実問題として教育現場からすると、タブレット端末が現場に届くスピードと使用に関する研修や準備（心の準備）が合わないままスタートしたような感覚がある。それでも、色々なツールを用いて、生徒と共に試行錯誤しながら行った授業が懐かしい。

私自身は特別ICT機器に強い方ではないが、授業などで試してみたいことがいくつかあった。どうせ使用するなら、思い切った利活用を目指さなければ宝の持ち腐れである。

そこで、教科指導にICTを取り入れ、チャレンジして見えてきたことや意外な発見を今回紹介できればと考えている。

02 定期テストでのICTの活用

定期テストの際、知識・技能の観点をはかる問いにおいて、導入１年目からタブレット端末を使用してみた。

使用したのは株式会社LoiLoのロイロノート・スクールである。テスト機能を用いて出題する為、一問一答の三択で出題することにした。

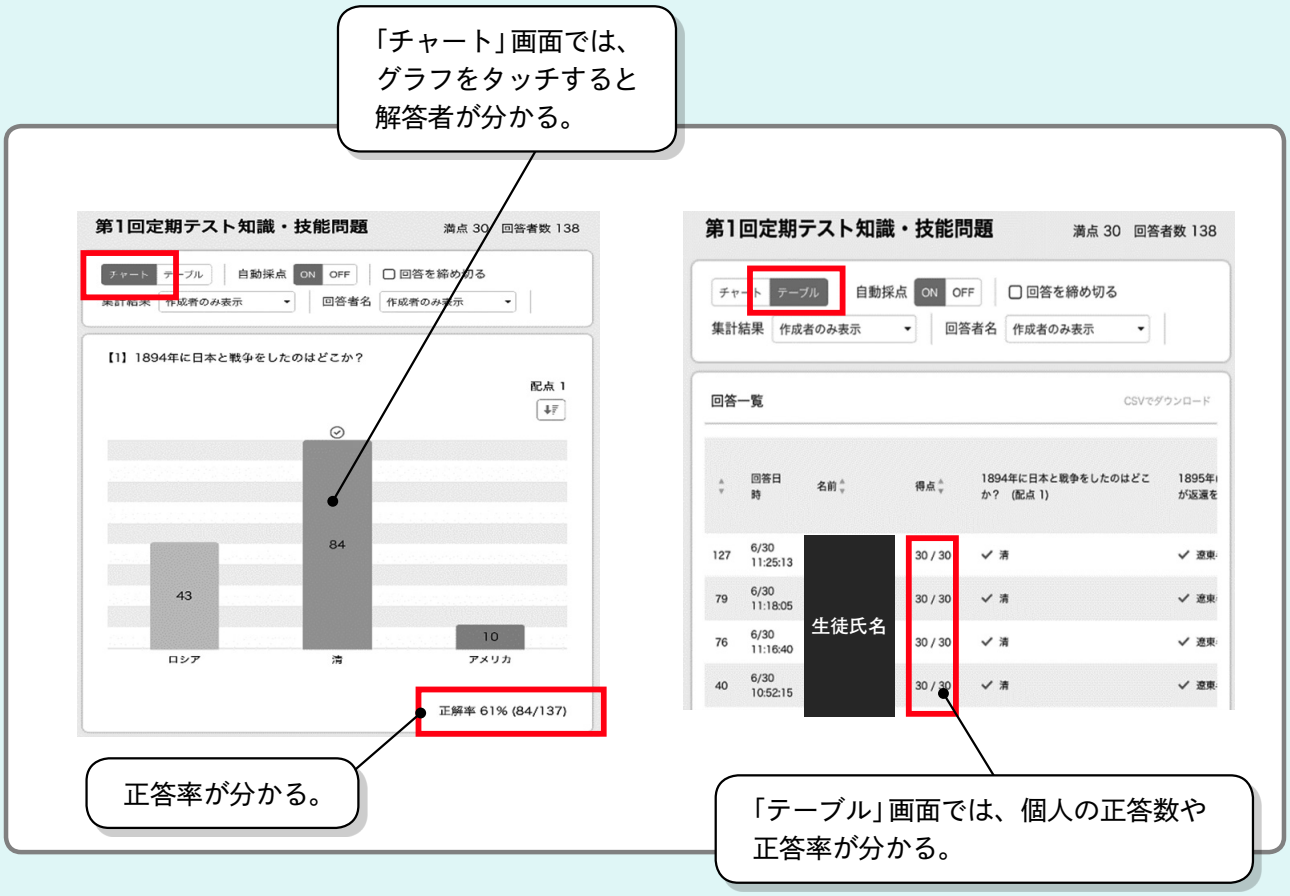
解答や正答率、正誤、未回答の有無まで即時出してくれるこの機能は、正確且つ指導者側の授業改善につながるデータの収集に役立つ。

ただ、正答を選択することで「理解」と言えるのかは、議論の余地はあると思う。

書けるに越したことはないが、学習障害（LD）の生徒でもこのような形式なら答えられる。**特別支援の視点でも利活用の仕方は広がるのではないだろうか。**

この画面は教師側の画面である。自動採点をONにすると即時採点してくれる。集計結果や回答者名は「作成者のみ表示」「全員に表示」など切り替えが可能。

問いに対して、三択の答えを用意。タップして解答する。



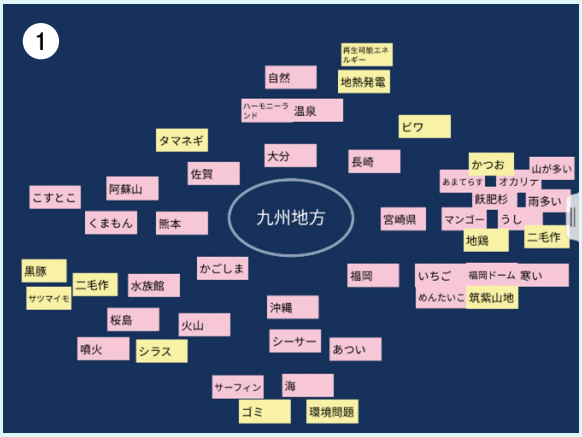
03 シンキングツールで力を高める

日南市のタブレット端末は、iPad × ロイロノートのコンビである。ロイロノートの中で、社会科としてありがたい機能がシンキングツールである。学習指導要領にある「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して…」を意識した授業にしていく上で、大変有効なツールである。

ここでは私が実践したものを２つ紹介する。特別なものではなく、普段の授業で実践したものを紹介したい。

１つ目は単元の導入で活用したシンキングツールである。九州地方の導入として、ウェビングマップを用いて授業を行った。

①の生徒は、既存の知識はピンク、学習を通して得た知識を黄色で追加する使い方をしている。②の生徒は各県ごとにカテゴライズする使い方をしている。



このように、自由にカードを移動でき、ペン機能で記入することもできるためワークシートで同じ作業をするよりも作業が効率的になる。

２つ目は章のまとめとして作成した日本の諸地域新聞である。環境・食・地形・観光など様々な視点でまとめることで、学習のふり返りにつなげることができる。

北海道新聞

生徒氏名

北海道を観光するならココ！

北海道を観光と聞いてとある事件を思い出すひもいるのではないだろうか。去年の4月に知床船の沈没事故があった。だが今回は、観光を楽しむことができたくさんいたところがあるなか、3つを取り上げて紹介していく。

1つ目は**想像動物園**。魅力は、なんといっても動物たちの生き生きとした姿を間近で見られること。「行動展示」といわれる方法で、行動展示または行動学的展示とは、その動物の生態やそれに伴う能力を、自然に誘発させて観覧者に見せるように工夫した展示のことである。動物それぞれが持つ特徴的な能力や行動、感性を発揮できる環境作りがなされており、訪れる人に驚きと感動を与えてくれると思う。他にもホッキョクグマが餌を食べているところやアザラシ、冬ではペンギンのお散歩などもある。今紹介した動物以外にもたくさん可愛い動物がたくさんいるため是非機会があれば行ってみてはどうだろうか。

2つ目は**大通公園**。大通公園では夏はYOSAKOIソーラン祭りやビアガーデン、秋はオータムフェスト、冬は雪まつり、イルミネーションなど、イベントが多くある。だが、本来の魅力は「噴水」と「彫刻」にある。大通公園にはブランクスライドマントラという大きな滑り台がある。この彫刻は彫刻家イサム・ノグチがつくった。他にも大通公園には噴水が4つある。直径約24mの大きい噴水やライトアップされる噴水などがあるようだ。

最後におすすめするのは**赤レンガ倉庫**。簡単に赤レンガ倉庫の歴史をいうと函館の西部地区にあり、赤レンガ倉庫は、長崎から来日し、輸入雑貨や船具などの販売を手掛けていた初代渡邊熊四郎が1887（明治20）年、既存の建物を買い取って営業倉庫に乗り出したのが始まり。赤レンガ倉庫ではショッピングや食事を楽しむのはもちろん、函館山を背景にレンガ造りの倉庫が立ち並ぶ景観は記念撮影スポットとしても人気だ。夜にはライトアップされ、より一層ロマンチックで美しい景色を堪能することができる。

今回は3つの観光地を紹介したが北海道にはまだたくさんの観光地がある。北海道に行く機会があったら是非紹介したところ以外のいろんなところに行ってみるといいのではないだろうか。

北海道の美味って何?!

北海道は**漁獲量が日本一**。その影響もあって北海道は海鮮が有名。明治～昭和にかけてはニシン漁が盛んに。ニシンが不漁になるとサケなどのの水あげ量が増えたが、近年ではホタテやウニなどの養殖が盛んになっているようだ。

北海道では海鮮の他に、牧草などの飼料を生産して乳牛の飼育を行う「**酪農**」も盛んである。北海道の生乳生産量（2020年）は415万トン以上で、全国の都道府県別で堂々の1位。日本の生乳生産の50%を占めている。まさに北海道は「酪農王国」なのだ。農家一戸あたりの乳牛の飼育数（全国有数だそう。乳牛からしぼった生乳は、地域の乳製品の工場に運ばれたあと、主にバターやチーズへと加工され、東京などの大都市をはじめ、全国各地に出荷されている。北海道ならではの牧草地が織りなす景観は「北海道」のイメージとして定着しており、**観光マーケットにおいても重要な存在**だそうだ。また、そこで作られる数々の北海道の牛乳・乳製品は、国内だけでなく、海外のマーケットでも評価されつつある。

自然と戦う北海道

寒いと言ったら北海道！という知識がある北海道。そんなな北海道では住宅や歩道などに工夫をしないやはり大変なようだ。住宅は窓を二重にしたり、断熱性の高い壁で作ったり、中央部を低くし、積もった雪を溶かして排出する屋根を作ったりしているそうだ。歩道の下に電熱線や温水パイプなどを通し熱で雪を溶し、人々が歩きやすくなり危なくないようにするためのの「**ロードヒーディング**」というものを行なってたりもしている。また、雪を積もりにくくするため縦型の信号機や下向きで、場所は車より目印となっている。ポ羽根あり道路の端を示す、路肩の目印となっている位置に四角ではなく三角の公衆電話ボックスも見られる。

○ちょっとした豆知識～現在の家により…？～○

北海道の冬は気温が氷点下になるなど寒さが厳しく、昔の家は玄関や廊下の水が凍ったり、浴室にツララができたりすることもあったそう。しかし、今の新しい家は前述のようなさまざまな工夫によって厳かさが保たれており、冬でも半袖で過ごせる家も多いと言われている。過去のウェザーニュースの調査では、**「朝起きた時の気温が日本で一番寒かい」**という結果もあった程らしい…。

生徒がタブレット端末で作成した日本の諸地域新聞

04 おわりに

定期テストでの使用において、学力不振の生徒の隠れた思考力・表現力を可視化することができ、これまで無記入が多く、本来の力を発揮できなかった生徒の学習支援効果がある。

また、採点時間が大幅に軽減され、正誤の分析や傾向がグラフ化されるので、正答率が低い問題の復習や授業の在り方を見直すためのデータとなり、授業改善につなげる時間を生み出せる。

思考ツールを導入することで、思考の可視化が図られ、対話の場面で自分の意見を述べやすくなり、主体性の高い学習活動を行うことができるため、深い学びを提供できる。

何のためにICTを利活用するのかを明確にすれば、自ずと効率的且つ効果的な学びを提供できるに違いない。

１人１台端末を活用して協働的な学び・個別最適な学びを実現

宮崎県小林市立西小林中学校　早田　泰大

01 未来社会で必要な力の育成

日々の授業に求められる要素を挙げると、「主体的・対話的で深い学び」、タブレット端末の活用など、数多くある。しかし、私たちが忘れてはならないのは、「何のために授業をするのか」という目的である。学習指導要領やGIGAスクール構想が目指すのは、将来の「Society 5.0」や「超スマート社会」と呼ばれる予測困難な時代を生きていくために必要とされる力を育成することだ。

生徒に求められる力は、「知識」に加えて、「自ら課題を見つけ、それを解決する力」や「他者と協働し、自ら考え抜く力」が必要な時代へと移行している。つまり私たちの授業の在り方も、教師が一斉授業によって「教え込む」教育から、学習者が主体となって「学びとる」教育へと移行しなければならない。

しかし、一斉授業から生徒主体の学びへ転換するのは簡単なことではない。実際に授業のどの場面で具現化していくのか、と考えると難しい問題である。

そこで、**「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させることが、生徒主体の学びの実現に結び付くのではないか**と考えた。そして、この学びの過程において、１人１台端末を活用することは、**「生きる力」を育むための重要なツール**となるはずだ。

以下の実践紹介では、意図的・計画的にICTの活用、「協働的な学び」、「個別最適な学び」に取り組んだ事例を紹介する。この事例は、学習活動端末支援Webシステム「SKYMENU」を活用した実践である。各学校の支援ソフトとは異なる機能もあるだろうが、紹介した事例が、本記事を読んでいただいている皆様の学校の支援ソフトで代用できないか、考えていただけると幸いである。

02 実践事例

場面１　個人目標を立て、ふり返る

図１は普段の授業において必ず生徒が記入する学習カードである。生徒は、学習内容や学習態度についての目標を自ら決め、できたことやできなかったことをふり返る。

端末を活用することで、教師が添削したものを効率的に添削・返却することができる。これを日々繰り返すと、生徒たちはよりよい学び方を主体的に選択・判断し、行動に移していく。

図１　ウェブ上で添削・返却した学習カード

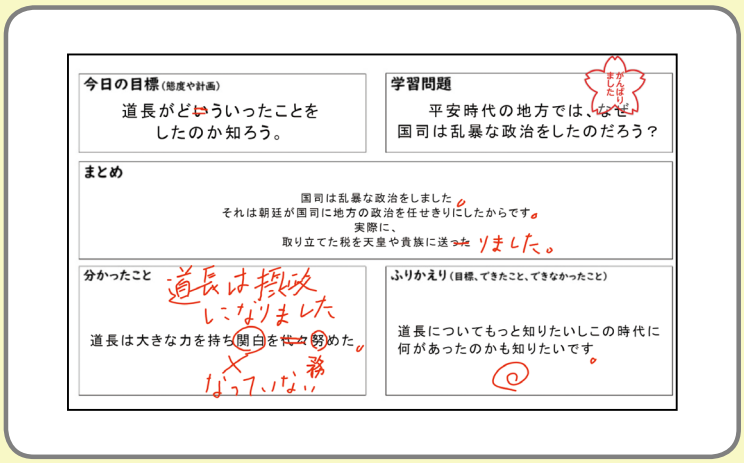
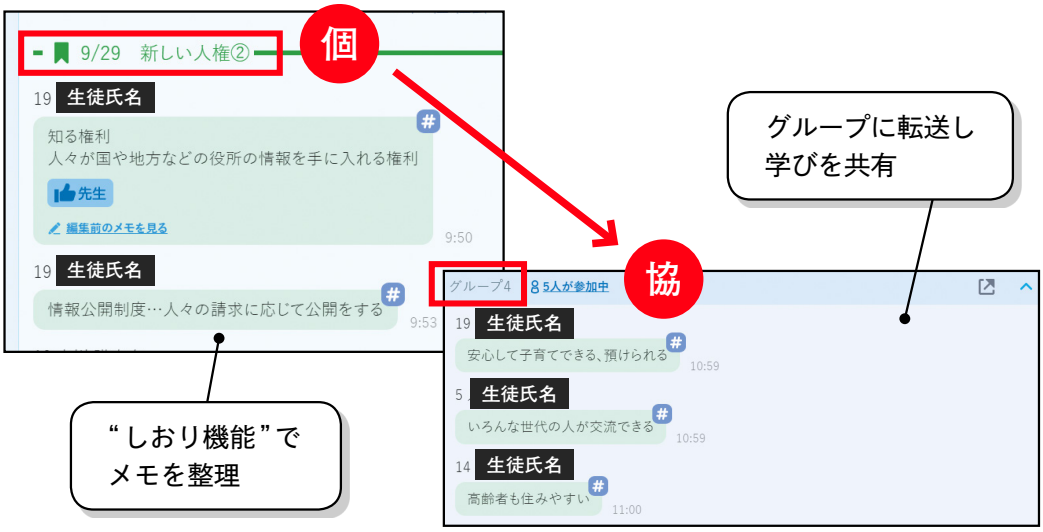


図２　ウェブ上で生徒が作成したメモとグループでの共有のようす



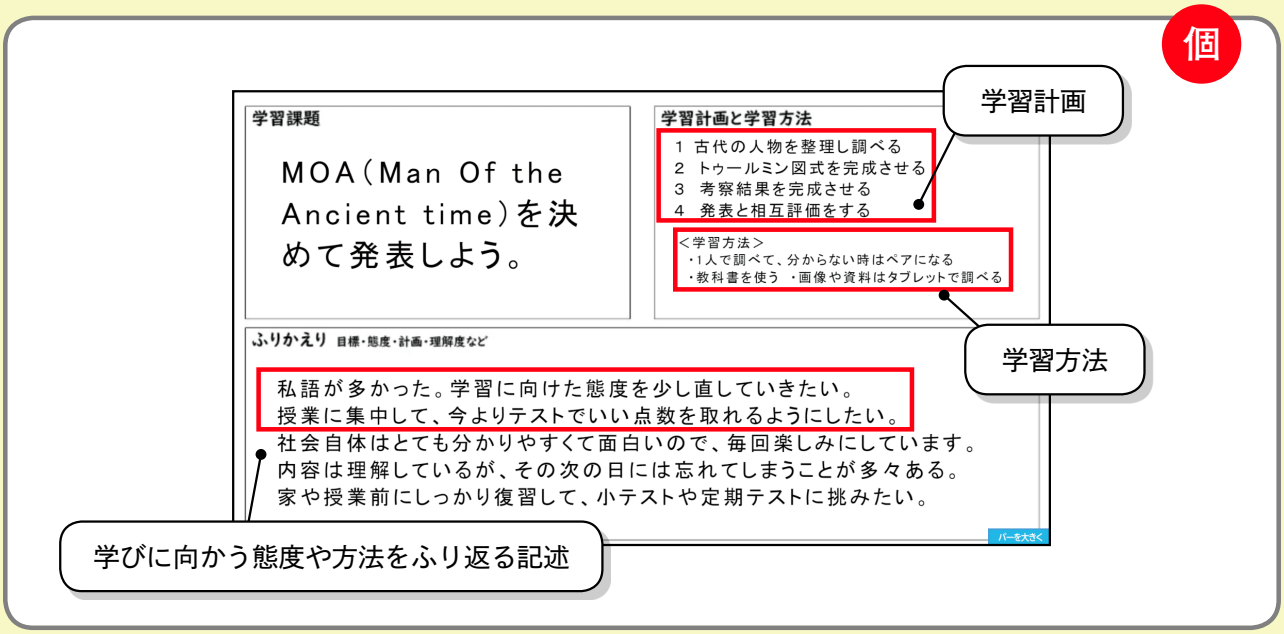
場面２　学びを蓄積し活用する

生徒たちは、“板書を写す”という作業をすることがほぼ無くなった。調べ学習や話し合い活動で気付いたこと、教師の話を聞いて大事だと思ったこと、など個々の判断で自由にウェブ上に入力（SKYMENU“気づきメモ”機能）していく（**図２**）。入力されたメモは、グループ機能で班や学級全体で共有できる。また、一度メモした文章は、コピー＆ペーストできるため、まとめ学習の資料作成など、別場面でも活用できる。

場面３　単元の学びを計画し、方法を選択する

生徒の興味・関心に基づき、特性や個性を育成する「学習の個性化」の第一歩は、学習者に学習活動の順序や調査方法を選択・決定できるようにすることだ。**図３**は、歴史的分野「古代のまとめ」の学習計画とふり返りである。生徒は、単元内で「いつ」「誰を」「どうやって」調べるのか、自ら選択し決定する。歴史上の人物の誰を選んでも、単元のねらいが達成できるよう、教師が課題の設定を行う。

図３　生徒が作成した単元計画とふりかえり



場面４　個と協働を繰り返す中で活用する

生徒は、自分の立てた計画に沿って学習を進める。しかし、「個別最適な学び」が「放置された学び」にならないように心がけている。

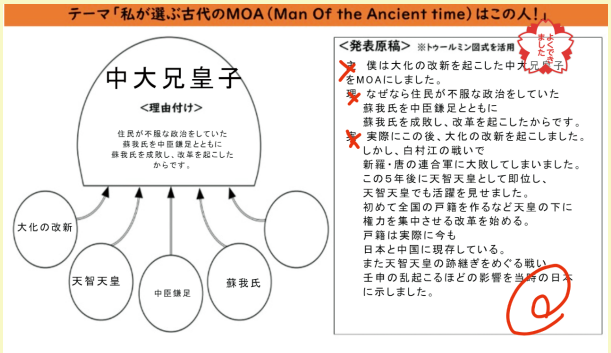
タブレット端末で得られる情報は、大量かつ幅広く、生徒全員が適切に情報収集できるとは限らない。どのように活用するか生徒自身に選択・決定させると同時に、正しい方向へ学びを調整する機会を設定する。例えば、教師が「あなたが○○と考える根拠となる資料をタブレット端末で調べてはどう？」と促したり、単元のねらいが達成できるよう、教師が意図的に発問を行い、グループで話し合わせたりしている。個と協働を繰り返す中で、端末を目的に合った形で活用することが大切である。

図４　タブレット端末を使用した授業のようす

場面５　パフォーマンス課題に取り組む

タブレット端末を学習で使用する大きなメリットは、生徒にとっても教師にとっても“効率がよい”ことに尽きる。書き直すことに対するハードルが下がるため、生徒は自分の考えを論理的に表現しようと、粘り強く取り組む様子がうかがえた。課題へ取り組む姿勢が、紙で提出させた時よりも格段に前向きになったと感じる。

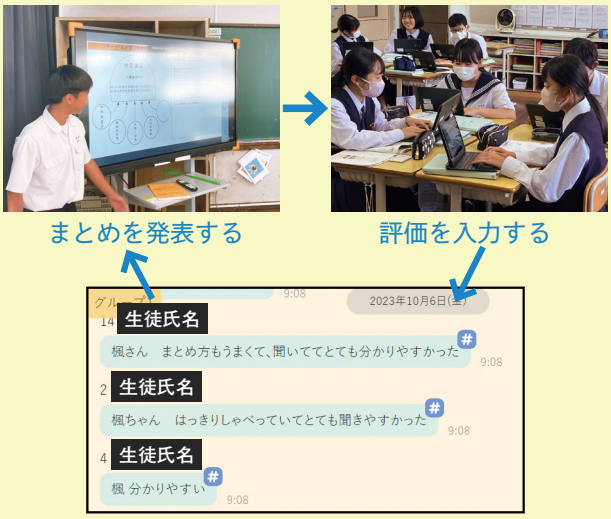
図５　生徒が作成した古代学習のパフォーマンス課題の成果物



場面６　発表と相互評価をする

タブレット端末を活用して作成した成果物を、生徒が順番に発表し相互評価する。タブレット端末を活用することで、瞬時に評価を共有することが可能である。また、他者の評価も可視化されるため、評価の仕方についても視野を広げることができる。耳で情報を理解することが苦手な生徒にとっても効果的だ。発表を終えた生徒は、すぐに自分の発表の評価を見ることができ、自信をつけたり、改善点を把握したりすることができる。

図６　発表と相互評価のしくみ



場面７　成果物を共有し、学びを深める

個人で取り組んだ提出物を生徒同士で共有できる設定にしておけば、他者の考えを見たり意見交換したりしながら、自分の考えを深めることができる。例えば、結論付けた自分の考えを、「協働的な学び」の後に再考させることで、よりよいものを創造することが期待できる。

課題とともにルーブリック評価を生徒に提示することを、多くの先生が実践されていると思う。その際に、自己評価をさせ、教師に評価をウェブ上で返却し、ふり返る機会を設定している。

図８の生徒は「Bを目指す」とはじめに記入したが、実際はA評価に向けて取り組んだことが見て取れる。一方で、自己評価と教師による評価が一致しない時もある。自分自身を客観的に自己評価する力を、生徒による相互評価活動も含め、タブレット端末を活用することで長期的に育みたいと考えている。

図７　提出物の共有

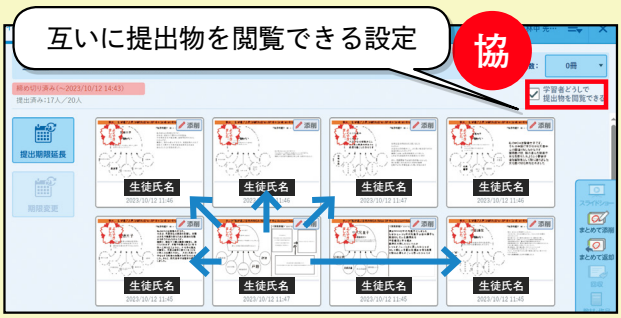
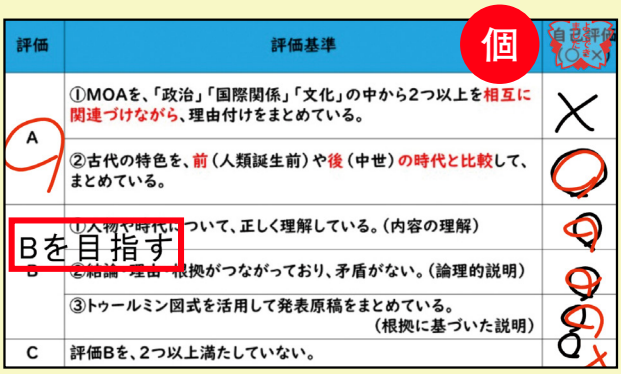


図８　自己評価シート



03　おわりに

タブレット端末の活用によって、生徒主体の活動が増え、学びに向かう力や、自分で考え課題を解決する力の育成につながり、発表が苦手な生徒も表現する機会があるため、「協働的な学び」に参加できる。しかし、タブレット端末はあくまで手段であるため、授業のねらいを達成するための問いはどうあればよいか、個と協働をどのように展開していくのかなど、従来の社会科でも議論されてきたことを吟味していく必要がある。今後も「何のために授業をするのか」という目的を忘れることなく、よりよい授業を創造したい。

Q&A

Q：全ての学習活動をタブレット端末で行っていますか？

A：タブレット端末を活用するのは、その効果が期待できる活動のみです。授業中は、小テストとやり直しは紙で行ったり、問題集に取り組ませたりして、知識を確実に定着させるための活動も大事にしています。

Q：タブレット端末の活用に自信がありませんが、どうすればよいでしょうか？

A：今年度の異動に伴い、前任校と全く異なる端末機能に私自身困惑しました。そこで「先生に教えて欲しい」と生徒に話すと、私が目指す学習活動に結び付く機能を教えてくれました。「教師が教える」のではなく「生徒と共に授業を創り、共に成長する」というスタンスでタブレット端末の活用を進めていってはどうでしょうか。

Q：個々に学習を委ねると学習内容や理解に差が生まれてしまいませんか？

A：授業や単元のねらいが達成されるよう、教師が発問を精選したり、まとめは教師主導で行ったりするなどして、生徒全員が同じゴールにたどり着くようにしています。

社会科 NAVI＋ 中学社会⑬

日文教育資料［中学校社会］
令和５年（2023年）11月7日発行

編集・発行人　佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪府大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33705

日本文教出版株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp

大阪本社　〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261　FAX：06-6606-5171

東京本社　〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611　FAX：03-3389-4618

九州本社　〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696　FAX：092-521-3938

東海支社　〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F·B
TEL：052-979-7260　FAX：052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL：011-764-1201　FAX：011-764-0690